

花き

1 トルコギキョウ

(1) 無加温6～7月出荷作型の栽培管理

- ・定植後は、内張りカーテンやトンネルをかけ、少なくとも2週間程度は15℃程度での温度を確保し、活着を図ります。その後はじっくりと生育させ充実した株にするため、やや低めの12～15℃で管理します。活着後は、日中は高温になるのでトンネルをあけて換気します。
- ・低温期は株腐病、根腐病などが発生しやすくなりますので、かん水を行う場合は、夕方には床表面が乾く程度に午前中に手かん水します。
株腐病は、リゾクトニア菌によるもので、土に接している部分から輪紋状の斑が発生して進行すると生長点にも及び枯死します。



定植直後のトンネル被覆

(2) 加温5～6月出荷作型の栽培管理

- ・年内定植の早いものは、抽苔が始まります。寒い時期でカーテンを閉め切っていると、ハウス内の湿度が高まって結露し灰色カビ病が出やすくなります。また、急に温度が上がると葉先枯れが発生することがあります。晴れた日中の換気を十分に行い湿度と温度を下げます。また、循環扇や送風機で施設内の空気を動かすことで、温度ムラの改善や灰色カビ病防止に効果があります。
- ・循環扇の正面では強い風が吹くため、栽培作物に風が直接当たらないような位置（一般的には作物の最頂部と温室の天井部の間）に設置します。
- ・単棟ハウスなど間口の狭い温室の場合には、同一方向に送風して温室の下層部で戻りの気流が形成されるように設置しましょう

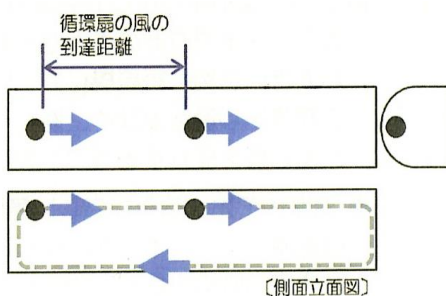


図1 単棟ハウスの間口の狭い施設での循環扇設置



図2 循環扇



図3 リゾクトニア菌による株腐病